

協会会員並びに関係者の皆様へ（令和6年度初頭にあたり）

平素は、協会活動に対してご理解ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。さて、公益法人移行8期目となる令和6年度初頭にあたり、一言メッセージをお伝えしたいと思います。

新型コロナ、ウクライナ戦争やパレスチナ戦争、円安と物価高、生成 AI の ChatGPT 旋風等、世界は留まるどころを知らず動き、まさしく無常迅速です。

知識が価値を持つ知識経済社会においては、知識の活用によって文化・文明を発展させる先見性を持った『**開明的**』活動こそが重要であり、無知・無明は繁栄や幸福をもたらしません。また、何事にも原理原則があり、これに沿ったマネジメント（経営）が求められますが、その前提には『**倫理観**』があります。

さて、我が国はバブル崩壊後まさに沈みゆく大和（日本）の状況にあります。経済指標でいえば50年前に先祖帰りして、例えば GDP は人口で3割も少ないドイツに抜かれ世界第4位、国際競争力指標も1990年のトップから35位に凋落しています。この原因は種々あると考えられますが、主たるものとして、①日本人の精神性としての『**Integrity**』の喪失と、②知識経済社会に適応した無形資産（知財）マネジメントの不作にあると考えられます。

協会は、未だ小なりといえどもこの本質を見極め、日本再生（Reborn Japan）に向けて発足以来定款に従って下記活動を継続しております。

- ① については、欧米追従（隷従）ではない自律開明的精神を取り戻すこと。
- ② については、事業商品に係わる全ての社外秘情報（無形資産情報）を全世界で保護活用できるように知財登録して、収益の大半をこの無形資産活用から生む出すように知財マネジメントのパラダイムシフトを行うこと。
（これらをまとめた小論を、準備が整い次第配信したいと思います。）

今後とも皆様と共に**知財を利益、ブランド、誇りに直結する**目標に邁進します。知財等についてお困りやご相談事がありましたらご遠慮なく協会HPのお問い合わせからメールしてください。迅速に対応します。本年も皆様の益々のご理解ご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年1月1日

公益社団法人 知財経営協会（SIR）
会長兼理事長 玉井誠一郎